

各種意見等への対応状況一覧表

資料 1 - ⑤

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
特別委員会	1	-	人口減少が進む中で、各地域の今後の行政サービスの需要量を量るためにも、地域ごとの人口動態の把握に努めること。	人口ビジョンは、人口の自然増減及び社会増減等を踏まえ、市全体の人口の将来展望を描くことを目的に策定するものであるため、地域ごとの推計については、必要に応じて各部局が策定する個別計画等において実施します。
特別委員会	2	-	本市の人口の将来展望を描くための適切なアンケート調査を行うこと。	人口の自然増減に関する調査として、本市居住の女性及び未婚男性に対する「結婚・出産・子育てに関する調査」を、社会増減に関する調査として、市内の高校・大学・専修学校生に対する「進学・就職に関する調査」とともに、東京・関西圏居住の20歳以上本市出身者に対する「Uターン意向調査」を実施しました。その結果から、市民希望出生率などを抽出し、人口ビジョンの将来展望に反映させました。
特別委員会	3	-	本市の合計特殊出生率が全国の平均値等よりも低い原因の把握に努めること。	人口ビジョンのⅡ. 1. (2) 「自然動態に係る動向」に反映しました。
特別委員会	4	-	女性が意見を出しやすい仕組みづくりを行うこと。	平成27年8月29日に、少人数のグループごとに討論していただく、ワークショップ形式の「松山ミライカフェ女子会」を開催しました。この中では、会場のセッティング等についても、活発に意見交換しやすい雰囲気作りを意識して実施しました。
特別委員会	5	-	若い世代の結婚・出産・子育てへの考え方について分析を行うこと。	人口ビジョンのⅢ. 2. ①「自然動態に関すること（結婚・出産）」及びⅢ. 4. (1) 「★自然動態へのアプローチ」に反映しました。
特別委員会	6	-	当特別委員会も含め、各方面から出された松山らしい意見やアイデアを出来るだけ採用することで、松山市ならではの人口ビジョン・戦略の策定に努めること。	各種意見対応一覧表のとおりです。「松山ならではの」に関しては、総合戦略の施策のうち、重点的に取り組む内容を「まつやま創生未来プロジェクト」として取りまとめました。
特別委員会	7	-	これから就職や進学を迎える高校生・大学生世代の意見も聞くこと。	平成27年8月29日に、少人数のグループごとに討論していただく、ワークショップ形式の「松山ミライカフェ若者会」を開催しました。また、市内の高校・大学・専修学校生に対する「進学・就職に関する調査」を実施しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
特別委員会	8	-	産官学金労言の会議ではメディアを活用するなど、各界の若い層からの意見が出る仕組みづくりを検討すること。	平成27年9月補正予算（案）にて、総合戦略のプロモーション活動に関する費用を計上しており、その中で、メディア等を活用したプロモーションの取り組みを予定しています。また、総合戦略の基盤戦略の中に、各種団体等による推進組織の構築のほか、当該組織主体による推進活動の仕組みの構築について明記しています。
懇話会	1	②少子化対策	25～34歳の結婚・出産・子育て等のライフステージをいかに手厚く支援するかであり、関連する施策をパッケージにして優先度を決め、不足している部分を民間が補完するなど、政策の効果を高めることが求められている。	「結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」の政策全般により、施策の優先度などを考慮した上で支援を行います。
懇話会	2	②少子化対策	都会と同様女性の社会進出が顕著になったことや核家族化の進行が、出生率の低下の要因となっているため、ワークライフバランス支援のための施策を推進することが大事である。	施策231-②③に反映しました。
懇話会	3	②少子化対策	小・中・高・大学での教育環境整備で専門性を引き出す教育が必要である。	「子育て支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	4	②少子化対策	他都市にない話題性に富む子育て支援策等、松山らしさを出す必要がある。たとえ難しくても、少しでも松山市に残ってもらう、松山市の施策に魅力を感じてもらおうための取り組みが必要であり、広報を通じて地域内外にPRする必要がある。	「子育て支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	5	②少子化対策	少子化の要因の一つとしては教育費の問題が大きく、2人目以降は経済的に厳しいと思われるため、助成が必要である。また、3人目については、家族がサポートできる環境でなければ、考えないかもしれない。家族がサポートできれば一番いいが、それが難しい夫婦に対するサポートの強化が重要である。	施策225全般に反映しました。
懇話会	6	②少子化対策	結婚していない人には、出会いの場を提供すれば、カップルが多く生まれるのではないか。	施策221全般に反映しました。
懇話会	7	②少子化対策	保育所の設置をはじめとする育児サポートのほか、不妊治療への保険適用を検討してはどうか。	保育所の設置については施策226-②に反映し、不妊治療費助成については施策222-①に反映しました。また、保険適用については国等の動向を注視してまいります。
懇話会	8	②少子化対策	学生に対しては、市内の大学が連携して、組織的に出会いの場を提供することも考えられる。また、お見合い制度を復活させ、市が世話人を指定したり個人情報管理することで安心感を出すことなども考えられる。	「出会いの場の創出」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	9	②少子化対策	子育ては、幅広い子どもの年齢に応じた育児施設や病児保育等のインフラ整備、社員の子育てをサポートする事業者を増やす取り組み、NPO活動への支援等が必要である。	施策226-②、施策231-②③に反映しました。
懇話会	10	②少子化対策	20代で結婚して第1子をもつと第2子、第3子につながるので、男女とも20代で結婚できる、結婚したいと思える環境整備を官民で推進する必要がある。	施策211-①、施策225全般に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	11	②少子化対策	ワークライフバランスと企業競争力の向上は一見矛盾するが、社会が持続的に成長するためには、両者の調和の実現が必要である。	施策231-②③に反映しました。
懇話会	12	②少子化対策	民間企業は、子育て支援事業も持続的にやっていかなければならない。	施策231-②③に反映しました。
懇話会	13	②少子化対策	教育や子育ての問題は、長期的なケアの仕組みをどう作るかに尽きる。有り体に言えば、お金と社会システムをどう組み合わせるかであり、地域社会全体を見て、長期的な戦略で優先順位をつける必要がある。	「結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」の政策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	14	②少子化対策	官民一体で取り組まなければならないが、就労環境の整備が遅れている。女性の多様な働き方に応じた環境整備が必要である。	施策231-②に反映しました。
懇話会	15	②少子化対策	少子高齢化対策では、仕事と生活の調和をいかに図っていくかが重要である。行政は非正規雇用を正規化する場合の補助金制度の制定、企業は賃金の底上げなどを検討していただきたい。	施策231-②③に反映しました。
懇話会	16	②少子化対策	早期退職者や中途退職者への対応では、行政や企業が、定着支援や働きやすい職場環境の整備など、若者が希望を持てる施策を推進することが必要である。	施策211-①に反映しました。
懇話会	17	②少子化対策	未婚化、晩婚化が問題であり、協議会では異性との出会いの機会を提供しており、行政や企業にも縁結び事業に取り組んでいただきたい。	施策221全般に反映しました。
懇話会	18	②少子化対策	若者は収入が少なく、祖父母世代にはゆとりがないということが背景にある。また、出産年齢の女性人口は多くても就労しており、残業などがあるのではないかと。企業は、ワークライフバランスを確保できるような体質をめざす必要がある。	施策211-①、施策231-②③に反映しました。
懇話会	19	②少子化対策	子育てに多額な費用がかかるという問題を解決するには、様々な観点からの取り組みが必要だが、私立の学校や塾に行かなくても、公立の学校で確かな学力を保証するような取り組みを行うことで、安心感を与えられるであろう。学校教育だけでカバーできない部分があれば、NPOが学習面や生活面の支援を行い、そこに行政からの補助があればいい。	「子育て支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	20	②少子化対策	長時間労働は未婚化や晩婚化の要因の一つであり、長時間労働が恒常化している状況を改善することが必要である。ノー残業だけではなく、労働生産性の向上や業務改善を通じて、定時まで成果を上げるという働き方が子育て支援につながっていく。	施策231全般に反映しました。
懇話会	21	②少子化対策	未婚化や晩婚化の要因の一つは出会いがないことである。	施策221全般に反映しました。
懇話会	22	②少子化対策	共働き・子育てをスタンダードにすることが必要である。片働きでは家計が支えづらいが、共働きで収入を支えることが普通になると、男性も楽になり、結婚しやすくなる。	施策231-②に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	23	②少子化対策	結婚の定義を変えることも必要。お互いを補い合うパートナーという定義に変えていく必要がある。第2子の出産は夫の家事時間と関連すると言われており、その意味でも共働きを推奨したい。	施策231全般に反映しました。
懇話会	24	②少子化対策	イクボスも推奨したい。イクボスは、上司が自らワークライフバランスを推奨し、業績を出しつつ部下のワークライフバランスにも配慮する。上司が変わらなければ部下も変わらない。	施策231全般に反映しました。
懇話会	25	②少子化対策	松山市役所が率先して時間外労働を減らすということも提案したい。松山市役所の時間外労働は、数値の拾い方によって誤差はあると思うが、中核市の中で最も多いというデータを見たことがある。業務改善を実行して残業を減らせば、財源も市民目線も確保できる。	施策231-①に反映しました。
懇話会	26	②少子化対策	男性が正規雇用で安定的に勤められて、女性が働かずに家庭にいられる社会になるのが理想である。	施策211-①に反映しました。
懇話会	27	②少子化対策	子育ての環境を整えるためには、イクボス、イクメン、女性の働く場が必要である。例えば、男性を早く退社させるなど。何を優先させるのか地域や会社で話し合いをして決める必要がある。	施策231全般に反映しました。
懇話会	28	②少子化対策	保育所を増やし、保育時間を延長することも大事だが、行政だけに押し付けてはきりが無い。会社や働き方が変わらなければならない。	施策226-②、施策231-②③に反映しました。
懇話会	29	②少子化対策	合計特殊出生率が低い理由を身近なところで感じているのは、数字的な根拠は示せないが、シングルマザーが多いことが影響しているのではないかと思っている。結婚が早く、出産、離婚を経験するケースは多いが、二度目の結婚をするケースが少なく、子供も増えないといったことも考えられる。	「結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」、 「ワーク・ライフ・バランスの実現」の政策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	30	②少子化対策	ワークライフバランスについて、家事の分担、仕事の分担、育児の分担と分けて考えがちであるが、労働を分担するという視点で考える必要がある。つまり、育児に対しても対価を発生させ、それがたとえ祖母や祖父であっても対価を支払うなど、育児も仕事や家事など全体の中で考える必要がある。	施策231全般に反映しました。
懇話会	31	②少子化対策	都内では、就学や就労、通院、介護など、どうしても保育所へ預けなくてはならないという事情を抱えた家庭でなくとも、「子供の社会性を育てる」、「自分の自由な時間」のために保育所へ子供を預ける人もいる。こうした新しい価値観にも応えていくことが、今後は必要になってくるだろう。	施策226-②に反映しました。
懇話会	32	②少子化対策	松山は暮らしやすいとの評価がある割に、出生率の低さが目立つ。今の市民が、もっと当事者意識を持って、課題克服のために頑張る必要があるかもしれない。 デンマーク・コペンハーゲン市は、フィンガープランという100年計画を市民が共有しており、この計画をもとに、まちづくりが進められている。これくらいの感覚を持って、松山の強みを定めて、出生率を上げていくような地域をつくってほしい。	本戦略の「少子化対策」において、出生率の向上を最重要課題と捉えており、それを目指した施策に取り組んでいくとともに、官民一体の推進組織を構築し、総合戦略等の内容を広く周知・啓発してまいります。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	33	②少子化対策	東京一極集中の是正は、地方から見れば、人の取り合いになる。松山が、他地域より、より多くの人を移住させる責任として、出生率の高い地域になっていなければ、国民的課題である人口減少の歯止めには貢献できないことになる。	基本目標②「つながる未来を応援する（少子化対策）」全般で取り組みます。
懇話会	34	②少子化対策	松山市は都市イメージが良く、暮らしやすい土地だと思う。それでも人口が減少するとすれば、何が原因か。社会減少であれば、仕事の影響か、都市の刺激か、自然減少するのであれば、出生率が大きな要因である。	本市の出生率は、全国平均及び県平均に比べて低い状況にあるため、「少子化対策」において、出生率の向上を目指した施策に取り組んでまいります。
懇話会	35	②少子化対策	出生率が全国平均よりも低いというのは驚き。共働きが多いのか、共働きと言っても、東京の共働きのように、二人とも深夜まで働くような仕事を行っているのか。保育園も整備されている中、出生率が低い原因が思い当たらない。家計収入が低いということは、共働きが少ないのか。そうすると、収入が低く、将来に対する不安から子供をつくらないのだろうか。どういった家庭環境において、全国平均より低くなっているのか、もう少し分析が必要ではないか。	出生率が低い要因として、本市の有配偶率が低いことなどが関係していることや、本市夫婦が理想とする子どもをもつためには、子育てに関する経済的支援が必要という意見が多くあったことから、施策221全般及び施策225全般に反映しました。
懇話会	36	②少子化対策	派遣や請負の増加が、子供の出生率を引き下げている。正規雇用を増やし、生活できる賃金を払う企業を増やすことが必要である。	施策211-①に反映しました。
懇話会	37	②少子化対策	子どもを育てられる環境をつくるのが重要。そのためには、働く場と同時に学校が近くにないと出来ない。自治体と企業が共同で出来ることを最大限取り組む必要がある。また、老人が子どもと共存できる仕組みの活用も必要である。	「子育て支援の充実」、「子育て拠点や居場所づくりの整備」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	38	②少子化対策	北海道の別海町が、町立別海病院と札幌医科大学の医師などで立ち上げた、別海医療サポート隊「医良同友(いりどうゆう)」によって、子どもが生み育てられる環境がつけられたことから、医療施設の必要性は表れている。育児と介護が同時に出来る環境づくりも地方なら出来ると言える。	「結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援の充実」の政策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
懇話会	39	②少子化対策	企業は、結婚できる環境づくりとして、人を大切に経営が求められる。そのため、短時間労働の非正規雇用者の賃金を上げ、正規雇用者になる仕組みをつくりだしていくことが大切である。	施策211-①に反映しました。
懇話会	40	②少子化対策	安心、安全な産婦人科の増設や不妊治療の助成が必要である。また、保育所の増設や保育料の引き下げも必要である。	施策222-①、施策226-②に反映しました。
若者会議(発表)	1	②少子化対策	子育て支援が保守的ではないか。	「子育て支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
若者会議(発表)	2	②少子化対策	子どもの遊ぶ場所(公園等)が増えるとともに、そこで遊んでいる姿を目にすることで、子育てに住民が理解を示すまちであってほしい。	施策226-①に反映しました。
女性会議(発表)	1	②少子化対策	会社どおしの横のつながりがあれば、出会いの機会が増えるのではないか。	「出会いの場の創出」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
女性会議(発表)	2	②少子化対策	転勤族と結婚すると不安がある。同居の家族の事情が複雑だと大変なことが多い。色々な経験をすることで、解決する力が付く。様々な人にアドバイスをもらえる環境が欲しい。	「出会いの場の創出」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	3	②少子化対策	妊娠・出産について、仕事との両立が難しい。夫婦どちらの職場についても、育児休暇等に関する理解が必要。	施策231全般に反映しました。
女性会議(発表)	4	②少子化対策	出産経験がある人からアドバイスが欲しい。	施策222-①に反映しました。
女性会議(発表)	5	②少子化対策	子育てや子育てが終わった後の楽しみなどを伝えていくことが必要。	「子育て支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	6	②少子化対策	学校で、子どもに不審者対策の教育(大声を出すなど)を行うことが必要。	「子育て支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	7	②少子化対策	小中学校(学生も含む)で、適齢期や不妊等を含めたライフプランを考える教育が必要。	施策222-①に反映しました。
女性会議(発表)	8	②少子化対策	不妊治療や出産時について、病院に関する色々な情報が欲しい。	「妊娠・出産支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	9	②少子化対策	子育てに関する情報を人とのつながりで共有することが大切なので、小さなスパンで多様な方々と関わり合える場を提供してほしい。	施策224-③に反映しました。
女性会議(発表)	10	②少子化対策	出会いが少ない。結婚願望がない。良い人がいない。理想は30歳までに子どもが欲しい。同窓会(成人式・25歳・30歳会など)で出会いの場の提供があれば良い。	施策221全般に反映しました。
女性会議(発表)	11	②少子化対策	妊娠出産に関して、経済面が不安。	「妊娠・出産支援の充実」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	12	②少子化対策	待機児童対策が必要。市内保育所の情報を一括で閲覧できるシステムがほしい。	子育て拠点や居場所づくりの整備：施策126-①、閲覧システムについては、同施策の中で検討します。
女性会議(発表)	13	②少子化対策	子育て支援センターは、土日も利用したい。	「子育て拠点や居場所づくりの整備」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	14	②少子化対策	夫との役割分担が必要。男性が子育てして当たり前という環境整備が必要。男性も育児休暇や残業減等により、家事を分担したい。男性には、サポートだけでなく、理解してもらいたい。男性に対しては、小さいころから、教育(SNS等の世代にあったもの)が必要。	施策231全般に反映しました。
女性会議(発表)	15	②少子化対策	妊婦さんが公共交通機関を利用しやすくしてほしい。他県に比べ、妊婦無料検診が少ない。	施策222-②、施策225-③に反映しました。また、妊婦無料検診については、「妊娠・出産支援の充実」の施策の中で、検討します。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
女性会議(発表)	16	②少子化対策	婚活イベントは終了時間が遅く、参加費も高いため、参加しにくい。市が結婚式場等で婚活イベントを実施すれば、結婚をイメージしやすく、安心して参加できる。	施策221全般に反映しました。
女性会議(発表)	17	②少子化対策	妊娠出産について、周りに心配してくれる人がいてくれる環境整備が必要。	施策222-①に反映しました。
女性会議(発表)	18	②少子化対策	病児保育が少ない。	「子育て拠点や居場所づくりの整備」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	19	②少子化対策	ベビーカー等のレンタルがあれば、経済的に助かる。	「子育て世帯の経済的負担軽減」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	20	②少子化対策	子育て支援センターの職員が、親どおしのつながりを促進してもらえたら良い。	「子育て拠点や居場所づくりの整備」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
女性会議(発表)	21	②少子化対策	保育園等への一時預かりの補助券等があれば便利。	「子育て世帯の経済的負担軽減」の施策の中で、今後の事業等による対応を検討します。
アンケート(結婚等)	1	②少子化対策	(問14)既婚者について、理想の子どもをもつための支援の重要度は、「子育てに関する経済的支援」が非常に重要と答えた方が77.6%で1番目に多い。	施策225全般に反映しました。
アンケート(結婚等)	2	②少子化対策	(問14)既婚者について、理想の子どもをもつための支援の重要度は、「保育所の待機児童の解消」が非常に重要と答えた方が74.3%で2番目に多い。	施策226-②に反映しました。
アンケート(結婚等)	3	②少子化対策	(問14)既婚者について、理想の子どもをもつための支援の重要度は、「子どもが病気の時の保育サービス」が非常に重要と答えた方が72.0%で2番目に多い。	施策224-④利用者支援事業において、病児保育利用のサポートを実施します。
アンケート(結婚等)	4	②少子化対策	(問17)出産前から仕事をしており、出産された方で、出産を機に仕事を辞めた方は71.4%。	施策231-②に反映しました。
アンケート(結婚等)	5	②少子化対策	(問30)交際相手がない方で、相手を見つけるための活動をしていない方は、89.9%。	施策221全般に反映しました。
アンケート(結婚等)	6	②少子化対策	(問33)活用してみたい婚活支援については、サークル活動やクラブ活動・習い事等への参加のほか、アウトドアで共同作業を行うイベントを希望する方が多かった。	施策221全般に反映しました。
アンケート(結婚等)	7	②少子化対策	(問34)あると結婚しやすくなる支援内容は、「仕事と家庭を両立しやすくするための制度」が1番目に多い。	施策231全般に反映しました。
アンケート(結婚等)	8	②少子化対策	(問34)あると結婚しやすくなる支援内容は、「家賃補助や住宅取得資金補助」や「結婚・出産祝い金」などの経済的支援が2番目に多い。	施策225-③に反映しました。
アンケート(結婚等)	9	②少子化対策	(問39)未婚者について、理想の子どもをもつための支援の重要度は、「子育てに関する経済的支援」が1番目に多い。	施策225全般に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
アンケート (結婚等)	10	②少子化対策	(問39)未婚者について、理想の子どもをもつための支援の重要度は、「企業に対する職場環境の改善の働きかけ」が2番目に多い。	施策231-②、③に反映しました。
懇話会	44	③移住定住対策	県外に就職した人が、Uターンして経験が生かせる職場を確保することが必要である。魅力をつくって徹底的にPRするとともに、ふるさと納税等、まちの魅力づくりへの支援を呼びかけることも必要である。	施策312-②に反映しました。また、ふるさと納税については、ご提案の趣旨を踏まえ、施策311-②などで推進していきます。
懇話会	45	③移住定住対策	若者の定着については、松山市には魅力ある就職先があるが、若者がそれを知らない。若者本人や親が、ライフデザインを考える機会を持てるようにすることが必要である。	施策321に反映しました。
懇話会	46	③移住定住対策	県外大学に進学した人に、就職の時に松山市に戻ってもらうような方策を検討していただきたい。	施策312-②に反映しました。
懇話会	47	③移住定住対策	松山市内でアルバイトをする学生も多く、また学生がいることで地域にお金落ちるが、就労だけではなく、学生そのものをどう活用するかを考えられれば、元気な松山市になる。	施策331に反映しました。
懇話会	48	③移住定住対策	地元での結婚・出産や定住を促進するには、大人が故郷への思いを子どもたちに地道に伝えていくことも必要である。	施策321に反映しました。
懇話会	49	③移住定住対策	住みやすいまちであることをもっと全国に発信するとともに、地元の若い世代にもそれを伝えていくことが大事である。	施策311、321に反映しました。
懇話会	50	③移住定住対策	若者の定住に関しては、就職時が最も大きな問題である。高校生の段階から、行政や各種団体、企業が連携して地域のよさや県内企業のよさを再発見できるカリキュラムを組み、地元に対する誇りと愛着を育て、松山に住み続けたいと思ってもらえるような教育を徹底的に行う必要がある。	施策321に反映しました。
懇話会	51	③移住定住対策	地元出身者や地元大学出身者が地元企業に就職する際、優先的に採用するような事業ができないか。Uターンについては、メールで都会と松山の生活水準の比較や、企業の求人情報などを配信するなど、あらゆる媒体を使って若者にアピールすることが必要である。	地元企業への就職促進については、施策331などで取り組むこととしており、優先的な採用については、今後の検討課題とさせていただきます。また、Uターンについては、施策312-②、③に反映しました。
懇話会	52	③移住定住対策	15～24歳が転出超過だが、転出してもいずれ帰りたいと考えている人が8割いるというアンケートを見た。新陳代謝を高めるためにも、Uターンをフォローし、受入側企業が就職環境を整えるなど、連携して取り組む必要がある。	施策312-②に反映しました。
懇話会	54	③移住定住対策	東京から松山に赴任した人は、温暖な気候やコンパクトシティを評価して、もっと住みたいと言うが、それを市民が自覚することが大事。もっとアピールしてほしい。	施策321に反映しました。
懇話会	55	③移住定住対策	若者が定住する条件は、仕事と安く住める住宅があること。そこに思いが至るような若者を高校生や大学生のうちから育てる必要がある。	施策321に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	56	③移住定住対策	東京の松山出身者に調査をして、東京と松山に住むメリット・デメリットを整理し、それを学生に冷静に判断してもらうための材料として提供することも、ある程度有効ではないか。	施策321に反映しました。
懇話会	57	③移住定住対策	シニア層の移住を視野にいれてもよいのではないかと。定住者が増加すれば、その人たちが対象とした新たなビジネスにも派生する可能性がある。	施策313-③に反映しました。
懇話会	58	③移住定住対策	自分たちが学んだことを生かせる企業を自分たちが考え、それを誘致するような取り組みができればよいのではないかと。	施策321で取り組むこととしており、誘致については今後の検討課題とさせていただきます。
懇話会	62	③移住定住対策	大学の活性化も不可欠である。これからの時代のために創造する姿勢を学ぶ場所が松山には無いと感じている。	施策331に反映しました。
懇話会	63	③移住定住対策	PFIとかではなく、競争原理の下で、学校の廃校など眠っている場所をどんどん使えるようにすると中山間地や離島への移住の可能性が広がる。	施策313-①、314-②に反映しました。
懇話会	65	③移住定住対策	愛媛県人会に出席して若い方と話をすると、出来れば松山に帰って仕事がしたい、という声が他県に比べて多かったイメージがある。しかし、自分の望む仕事が無い。地元で就職を考えた時に、どこに相談に行ったらいいかわからない。様々なニーズに対して、どの部分は対応できるのか。少なくとも直ぐに対応できる、相談の受け皿は作るべきではないか。	施策312に反映しました。
懇話会	66	③移住定住対策	地方の大学生が、中央で就職する事は難しい。それでも中央へ就職するというのは、一定のやりたい仕事がないからか、それとも就職先がないからか、というようなデータの分析を行い、1,000人のうち何人くらい地元に残ってもらいたいというような目標を設定するべきではないか。	人口ビジョンのⅢ. 2. ②「社会動態に関すること（進学・就職・Uターン）」及びⅢ. 4. (1)「★社会動態へのアプローチ」に反映しました。
懇話会	67	③移住定住対策	東京一極集中の解消として、東京は家賃・学費・生活費が高く、生活していくのに疲れる環境であるため、地域が魅力を発信し、受け入れ態勢を整えることで、移住・定住を促進することが必要である。	施策312などに反映しました。
懇話会	39	③移住定住対策	北海道の浜中町では、町外から受け入れた新規就農者の情熱あふれる姿により、浜中町で生まれ育った後継者候補が就農を決心する後押しをしている。また、浜中町農協では、新規就農者を受け入れる際、必ず夫婦での就農を勧めており、その夫婦の多くは若く、子どもも小さいが、楽しみながら生き生きと働く親の姿を見て育った子どもは、いずれ親と同じ道を選ぶこととなる。(再掲)	施策314-①に反映しました。
懇話会	68	③移住定住対策	求人・雇用のワンストップ機能と実践的なコーディネーターが必要。また、教育機関や若者を対象とした起業支援が必要。	施策312、314-①に反映しました。
若者会議(発表)	3	③移住定住対策	進学については、将来につながる学部へ行きたいが、選択できる学部が限られている。	施策331に反映しました。
若者会議(発表)	4	③移住定住対策	授業以外の時間や人との出会いを大切にするため大学の立地条件が重要(市街地に近いなど)。	施策331-②などの参考にさせていただきます。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
若者会議(発表)	5	③移住定住対策	経済的負担が大きいので、地元に残る場合がある。それとは逆に、自分を試すため、都会での一人暮らしに憧れもある(地元では、人との出会いに限りがある)。	人口ビジョンのⅢ. 2. ②「社会動態に関すること(進学・就職・Uターン)」及びⅢ. 4. (1)「★社会動態へのアプローチ」に反映しました。
若者会議(発表)	6	③移住定住対策	就職活動では、仕事の内容・やりがい・安定・福利厚生・自分の技術や知識を生かせるか・意見が反映されやすいか・目標となる人がいるかななどを重視する。	施策312の推進の参考にさせていただきます。
若者会議(発表)	7	③移住定住対策	企業は多いが、魅力ある企業が分からず、認知度が低い。企業説明会などの企業アピールの場が必要。学生が将来の就職について考える機会が欲しい。	施策321-③に反映しました。
若者会議(発表)	8	③移住定住対策	県外の人に松山を知ってもらう取り組みが必要。全国にアピールできるものを作り、PR力を上げる必要がある。	施策311に反映しました。
若者会議(発表)	9	③移住定住対策	交友関係が広がり、情報交換しやすい場が欲しい。	施策331などの推進の参考にさせていただきます。
若者会議(発表)	10	③移住定住対策	松山のブランド化(鯛やキウイを使った美味しいもの、プロスポーツ等)を高め、他都市との差別化を図る必要がある。	施策311などの推進の参考にさせていただきます。
アンケート(進学就職)	11	③移住定住対策	(問12)高校生の志望する学校を予定する理由について、「自分のやりたい勉強ができる」が1番多く、「将来希望する職業に役立つ知識や技術が身に付く」が2番目に多い。	施策331推進の参考にします。
アンケート(進学就職)	12	③移住定住対策	(問12)大学生の志望する学校を予定する理由について、「自分のやりたい勉強ができる」が1番多く、「自分の学力に合っている」が2番目に多い。	施策331推進の参考にします。
アンケート(進学就職)	13	③移住定住対策	(問16)就職先を選ぶ際に考慮することについては、高校・大学・専門学校とも、「安定している」が1番多く、「自分のやりたい仕事ができる」が2番目に多い。	施策321-③推進の参考にします。
アンケート(進学就職)	14	③移住定住対策	(問20)松山市に本社がある企業の認知度は、全ての学校種別で低い状況であった。	施策321-③推進の参考にします。
アンケート(Uターン)	15	③移住定住対策	(問9)松山市にUターンする場合のきっかけとしては、「就職・転職」が1番多く、「定年退職・早期退職」が2番目に多い。	施策312-②、313-③に反映しました。
アンケート(Uターン)	16	③移住定住対策	(問11)松山市へのUターンを予定している方が10.1%、いつかはUターンしたいとする方が42.3%で、半数以上がUターンを希望している。	施策312-②推進の参考にします。
アンケート(Uターン)	17	③移住定住対策	(問13・14)Uターンを考える際に必要な情報や欲しい支援としては、非常に必要とやや必要を合せて、「就職」が1番目に多く、「住居」が2番目に多い。	施策312推進の参考にします。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	69	④地域経済活性化	出生率の向上や若者が住めるまちの構築には、安定した雇用が欠かせない。松山市産業の大きな特徴は、90%近くを第3次産業が占めることであり、このような特殊な産業構造の中で、創業をバックアップすることは重要なポイントである。また、松山市の雇用の80%以上が中小企業によるものであり、既存企業の安定のための支援も雇用の確保につながる。	安定雇用は施策431-①、432に、創業支援は施策414-④に、中小企業支援は施策412に反映しました。
懇話会	70	④地域経済活性化	所得の安定は第1次産業にとっても大きな課題であり、市長のトップセールスは続けてもらいたい。安定的な補助事業はあるが周知が足りない。新規就農希望者は想像以上に多いが、受け皿が少ない。	トップセールス関係は施策421-③に、新規就農者支援は施策434に反映しました。
懇話会	43	④地域経済活性化	若者定住については、就職する場所や職業選択の幅が少ない。魅力ある職場、生活環境、文化環境、スポーツ環境などを整備すべき。	産業立地は施策413に、新たなビジネス創出は施策414に反映しました。
懇話会	44再	④地域経済活性化	県外に就職した人が、Uターンして経験が生かせる職場を確保することが必要である。魅力をつくって徹底的にPRするとともに、ふるさと納税等、まちの魅力づくりへの支援を呼びかけることも必要である。	若者に魅力的な仕事については、基本目標④全般で取り組みます。
懇話会	71	④地域経済活性化	安定的で魅力のある就職先の確保、不動産の提供・斡旋、勤労者福祉サービスの充実が必要である。	産業立地は施策413に、勤労者福祉サービスは施策431-②に反映しました。
懇話会	45再	④地域経済活性化	若者の定住については、松山市には魅力ある就職先があるが、若者がそれを知らない。若者本人や親が、ライフデザインを考える機会を持てるようにすることが必要である。(再掲)	施策435に反映しました。
懇話会	11再	④地域経済活性化	ワークライフバランスと企業競争力の向上は一見矛盾するが、社会が持続的に成長するためには、両者の調和の実現が必要である。	政策41、政策42全般に反映しました。
懇話会	72	④地域経済活性化	人口移動は収入と相関すると言われている。共働き世帯の多寡は関係なく、1人当たり、あるいは世帯あたりの所得を上げなければならない。第3次産業の付加価値の向上、競争力の強化がいちばんの課題である。	市民1人当たりの所得は基本目標④の数値目標に設定しました。3次産業の付加価値向上は施策412、施策414、施策416、施策422に反映しました。
懇話会	73	④地域経済活性化	民間企業は、女性が働きやすい職場づくりに努力しなければならない。	施策433-②③④に反映しました。
懇話会	50再	④地域経済活性化	若者の定住に関しては、就職時が最も大きな問題である。高校生の段階から、行政や各種団体、企業が連携して地域のよさや県内企業のよさを再発見できるカリキュラムを組み、地元に対する誇りと愛着を育て、松山に住み続けたいと思ってもらえるような教育を徹底的に行う必要がある。(再掲)	施策435-①に反映しました。
懇話会	51再	④地域経済活性化	地元出身者や地元大学出身者が地元企業に就職する際、優先的に採用するような事業ができないか。Uターンについては、メールで都会と松山の生活水準の比較や、企業の求人情報などを配信するなど、あらゆる媒体を使って若者にアピールすることが必要である。(再掲)	地元企業への就職促進については、施策435で取り組むこととしており、優先的な採用については、今後の検討課題とさせていただきます。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	14再	④地域経済活性化	官民一体で取り組まなければならないが、就労環境の整備が遅れている。女性の多様な働き方に応じた環境整備が必要である。(再掲)	施策433に反映しました。
懇話会	74	④地域経済活性化	第3次産業は、女性が働きやすい環境づくりの中心的な役割を担う。これをやらなければ、第3次産業、ひいては地域の活性化はない。どう加速していくか、松山市や企業がすりあわせる必要がある。	施策433に反映しました。
懇話会	53	④地域経済活性化	教育と医療が成長産業といわれており、松山には教育、文化の風土があるので、それをキーワードとするような産業を集中的に育成する戦略は面白い。この分野はICTやメディア、ソフト産業など、いろいろな広がりがあるので、若者も自然に滞留・転入する。	新たなビジネス創出は施策414-①に、文化芸術等活用は423-①に反映しました。
懇話会	15再	④地域経済活性化	少子高齢化対策では、仕事と生活の調和をいかに図っていくかが重要である。行政は非正規雇用を正規化する場合の補助金制度の制定、企業は賃金の底上げなどを検討していただきたい。(再掲)	正社員化は施策432-①に、賃金底上げは基本目標④全般に反映しました。
懇話会	16再	④地域経済活性化	早期退職者や中途退職者への対応では、行政や企業が、定着支援や働きやすい職場環境の整備など、若者が希望を持てる施策を推進することが必要である。(再掲)	施策431に反映しました。
懇話会	20再	④地域経済活性化	長時間労働は未婚化や晩婚化の要因の一つであり、長時間労働が恒常化している状況を改善することが必要である。ノーマル残業だけでなく、労働生産性の向上や業務改善を通じて、定時まで成果を上げるという働き方が子育て支援につながっていく。(再掲)	施策433-③④に反映しました。
懇話会	22再	④地域経済活性化	共働き・共育をスタンダードにすることが必要である。片働きでは家計が支えづらいが、共働きで収入を支えることが普通になると、男性も楽になり、結婚しやすくなる。(再掲)	施策433に反映しました。
懇話会	26再	④地域経済活性化	男性が正規雇用で安定的に勤められて、女性が働かずに家庭にいられる社会になるのが理想である。(再掲)	正社員化は施策432-①に、若年労働者定着支援は施策431-①に反映しました。
懇話会	75	④地域経済活性化	自分たちが学んだことを生かせる企業を自分たちが考え、それを誘致するような取り組みができればよいのではないかと。	創業支援は施策414-④に、産業立地は施策413-①に反映しました。
懇話会	59	④地域経済活性化	徳島県神山町の活性化を担っているNPO法人グリーンパレーのような活動を、いかに松山流で進めていくかを考えることが必要。	施策423-①に反映しました。
懇話会	76	④地域経済活性化	(労働生産性向上を目的として)ITツールを使って何をやるという具体的なことを提案して、実行していかなければならないと考えている。	施策416で取り組むこととしており、具体的な事業立案の際の参考にさせていただきます。
懇話会	77	④地域経済活性化	人のミックス、ネットワークを構築していく、鈴木寛氏のような人が松山に必要。	産官学金等の連携によるビジネス創出について、施策414に反映しました。また、基盤戦略として官民一体の推進体制を構築することにしています。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	60	④地域経済活性化	松山の規模はちょうど良く、海山など発展できる資源がすぐにある。すでにある資源を磨いて世界へ通用するものにしていく。そのための視点と、ビジョンが重要。	施策413、414、415、421、422に反映しました。
懇話会	61	④地域経済活性化	サブオフィスの必要性が益々高まってきており、ニーズにあった環境整備に取り組んでいくと、移住、もしくはサブ拠点としての可能性は高まるのではないかと。	施策413に反映しました。
懇話会	78	④地域経済活性化	これからは、地方が海外と直接繋がっていく時代。松山市の企業もどんどん海外へ出て行って、取引量を増やし、松山でも雇用を増やす必要がある。	施策415に反映しました。
懇話会	79	④地域経済活性化	松山の専業主婦が就労に対してもう少し積極的になれば、世帯収入が上がり、長期的には出生率の上昇にもつながるのではないかと。	施策433-①②に反映しました。
懇話会	80	④地域経済活性化	松山で起業したいニーズは無いのか。あれば地元で起業できるような支援策を揃えてバックアップを行い、成功した後も松山に愛着を持ってもらえる会社として、いい循環が生まれてくると思う。新たな起業が起きてこないで、経済の活性化も図りにくくなる。都市の刺激にもつながると思う。	施策414-④に反映しました。
懇話会	33再	④地域経済活性化	松山市は都市イメージが良く、暮らしやすい土地だと思う。それでも人口が減少するとすれば、何が原因か。社会減少であれば、仕事の影響か、都市の刺激か、自然減少するのであれば、出生率が大きな要因である。(再掲)	若者に魅力的な仕事については、基本目標④全般で取り組みます。
懇話会	35再	④地域経済活性化	派遣や請負の増加が、子供の出生率を引き下げている。正規雇用を増やし、生活できる賃金を払う企業を増やすことが必要である。(再掲)	正社員化は施策432-①に、企業誘致は施策413に、新たなビジネス創出は施策414に反映しました。
懇話会	81	④地域経済活性化	買い物ができる環境も必要。商店を再生させるには、商店だけでは難しいが、全国で卸の連合をつくり、商店の応援団が出来れば可能である。	施策412-③などで取り組むこととしており、卸の連合については、今後の検討課題とさせていただきます。
懇話会	38	④地域経済活性化	職住接近、商住接近、医療・介護接近、学住接近の四つを満たすためには、地域ぐるみの取り組みとして、今までの産官学金の連携を一層広め、企業・行政・学校・金融・医療・住民の全てが連携することが必要。これらを中小企業振興基本条例に盛り込むことが必要である。(再掲)	産官学金等との連携は施策414-①②に、中小企業振興計画は施策412-①に反映しました。
懇話会	39再	④地域経済活性化	北海道の浜中町では、町外から受け入れた新規就農者の情熱あふれる姿により、浜中町で生まれ育った後継者候補が就農を決意する後押しをしている。また、浜中町農協では、新規就農者を受け入れる際、必ず夫婦での就農を勧めており、その夫婦の多くは若く、子どもも小さいが、楽しみながら生き生きと働く親の姿を見て育った子どもは、いずれ親と同じ道を選ぶこととなる。(再掲)	施策434に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
懇話会	40再	④地域経済活性化	企業は、結婚できる環境づくりとして、人を大切にする経営が求められる。そのため、短時間労働の非正規雇用者の賃金を上げ、正規雇用者になる仕組みをつくりだしていくことが大切である。(再掲)	施策432-①に反映しました。
懇話会	68再	④地域経済活性化	求人・雇用のワンストップ機能と実践的なコーディネートが必要。また、教育機関や若者を対象とした起業支援が必要。(再掲)	求人と雇用のコーディネートは施策431-①に、創業支援は施策414-④に反映しました。
若者会議(発表)	11	④地域経済活性化	大企業やIT企業など、魅力ある企業の誘致や、全国的に進んでいる愛大農学部を生かした仕事(植物工場等)の誘致が必要。	産業立地は施策413-①に、新たなビジネス創出は施策414-①に反映しました。
若者会議(発表)	12	④地域経済活性化	若者の遊ぶ場やスポット(ファッションやカフェ等)、イベント等が少ない。松山ならではの観光客向けの大型テーマパークが少ない。温泉テーマパークはどうか。	観光誘客施設は施策422-⑦に、道後温泉活性化は施策422-④⑤に反映しました。
若者会議(発表)	6再	④地域経済活性化	就職活動では、仕事の内容・やりがい・安定・福利厚生・自分の技術や知識を生かせるか・意見が反映されやすいか・目標となる人がいるかななどを重視する。(再掲)	新たなビジネス創出は施策414に、産業立地は施策413に、キャリア教育は施策435-①に反映しました。
若者会議(発表)	7再	④地域経済活性化	企業は多いが、魅力ある企業が分からず、認知度が低い。企業説明会などの企業アピールの場が必要。学生が将来の就職について考える機会が欲しい。(再掲)	施策435-①に反映しました。
若者会議(発表)	13	④地域経済活性化	エミフルのような商業施設が欲しい。商業施設の立地がバラバラで若者が集まりにくい。	施策413-①に反映しました。
若者会議(発表)	14	④地域経済活性化	松山空港や道後温泉などで外国語表記が少ない。	施策422-②に反映しました。
若者会議(発表)	10再	④地域経済活性化	松山のブランド化(鯛やキウイを使った美味しいもの、プロスポーツ等)を高め、他都市との差別化を図る必要がある。(再掲)	まつやま農林水産物ブランドについて施策421-③に反映しました。
若者会議(発表)	15	④地域経済活性化	土地の利用の仕方がもったいない。もっと大きな企業を誘致できるのでは。	施策413に反映しました。
若者会議(発表)	16	④地域経済活性化	企業間のつながりとして交流会等を行うべき。産官学の連携が必要。	施策414-①に反映しました。
若者会議(発表)	17	④地域経済活性化	観光施設等の維持・運営をおろそかにしないことが大切。	施策422-①③④⑤に反映しました。
女性会議(発表)	3再	④地域経済活性化	妊娠・出産について、仕事との両立が難しい。夫婦どちらの職場についても、育児休暇等に関する理解が必要。(再掲)	施策433-③④に反映しました。
アンケート(結婚等)	4再	④地域経済活性化	(問17)出産前から仕事をしており、出産された方で、出産を機に仕事を辞めた方は71.4%。(再掲)	施策433-①②に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
アンケート (結婚等)	9再	④地域経済活性化	(問39)未婚者について、理想の子どもをもつための支援の重要度は、「企業に対する職場環境の改善の働きかけ」が2番目に多い。(再掲)	施策433-③④に反映しました。
アンケート (進学就職)	13再	④地域経済活性化	(問16)就職先を選ぶ際に考慮することについては、高校・大学・専門学校とも、「安定している」が1番多く、「自分のやりたい仕事ができる」が2番目に多い。(再掲)	新たなビジネス創出は施策414に、産業立地は施策413に、キャリア教育は施策435-①に反映しました。
アンケート (進学就職)	14再	④地域経済活性化	(問20)松山市に本社がある企業の認知度は、全ての学校種別で低い状況であった。(再掲)	施策435-①に反映しました。
アンケート (進学就職)	17再	④地域経済活性化	(問13・14)Uターンを考える際に必要な情報や欲しい支援としては、非常に必要とやや必要を合せて、「就職」が1番目に多く、「住居」が2番目に多い。(再掲)	就職については、施策431-①、施策432、施策434に反映しました。
懇話会	82	⑤暮らしと経済	観光、地方定住など、新しい人の流れをつくるためには、周辺自治体との連携が必要である。	施策541-①に反映しました。
懇話会	83	⑤暮らしと経済	(地元出身者や地元大学出身者の移住・定住について)松山市だけで取り組むのではなく、同じ経済圏の自治体と連携することが必要である。	施策541-①に反映しました。
懇話会	84	⑤暮らしと経済	松山市の人口だけがが増えて、周辺自治体の人口が減っては意味がない。周辺自治体との連携もしっかりと位置付けて戦略を作成していただきたい。	施策541-①に反映しました。
懇話会	85	⑤暮らしと経済	魅力あるまちづくりへの公共交通の役割は大きい。今後は公共交通の充実も含めて、官民一体となって魅力あるまちづくりに取り組んでいただきたい。	施策512-①に反映しました。
懇話会	86	⑤暮らしと経済	若者にとって魅力的なまちづくりが必要である。地元の若者も、外から来た大学生でも、ここにいたい、帰りたくないという魅力があるような地域づくりが必要である。	基本目標⑤「暮らしと経済を守る」全般で取り組みます。
懇話会	87	⑤暮らしと経済	地方創生は、地域間連携を進めながら、国と地方が役割分担をして進める必要があると考えている。	施策541-①に反映しました。
懇話会	88	⑤暮らしと経済	松山生活圏として、松前、東温、伊予市をあわせた人口64万人の方向性を見据えないと松山地域の活性化は、考えにくい。市内のみで考えるのか、周辺をあわせた圏域で考えていくのか、はっきりしておいたほうがいい。	施策541-①に反映しました。
懇話会	72再	⑤暮らしと経済	人口移動は収入と相関すると言われている。共働き世帯の多寡は関係なく、1人当たり、あるいは世帯あたりの所得を上げなければならない。第3次産業の付加価値の向上、競争力の強化がいちばんの課題である。	施策521-①に反映しました。
若者会議(発表)	18	⑤暮らしと経済	公共交通機関の便(県外へのアクセス含め)が悪い。電車を増やして、料金を値下げする必要あり。	施策512-①に反映しました。

種別	番号	部会	発言内容	意見対応
若者会議(発表)	19	⑤暮らしと経済	医療や保健、教育施設の充実が必要。	第6次総合計画の中でしっかりと取り組むとともに、施策541-①の地域間連携に反映しました。
若者会議(発表)	20	⑤暮らしと経済	田舎でも都会でもない「いい加減」というが、にぎわいがいい。	施策511-①に反映しました。
若者会議(発表)	21	⑤暮らしと経済	町内での助け合いができる必要がある。	施策551-①に反映しました。
若者会議(発表)	22	⑤暮らしと経済	物価を安く保つ必要がある。	本市としては、所得の向上が課題解決につながると考え、施策521-①に反映しました。
若者会議(発表)	23	⑤暮らしと経済	水源の確保が必要。	施策522-③に反映しました。